

経営判断

昭和60年(1985年)のプラザ合意に端を発したバブル景気により日本全体が浮かれていた時、

多くの経営者は本業を顧みることなく、目先の利益を求め不動産などへの投機に走っていた。

多くの経営者が自分自身を見失っていた時、石川五男社長は、「世の中の風潮には流されない。

石川ガスケットはあくまで本業に集中する」と全社に指示を出された。

これにより我が社はバブル崩壊の影響は全く受けなかったのである。この経営判断がなければ

現在の石川ガスケットはなかったであろう。

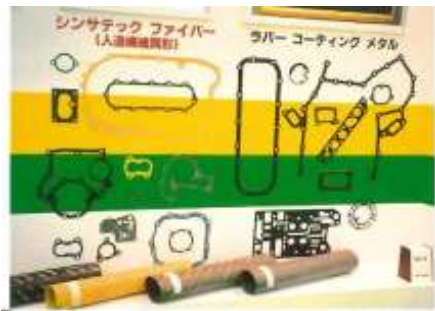
米国アームストロング社と人造繊維質ガスケット材の、
米国ウォルバリン社とラバーコートメタルガスケット材の共同開発契約締結

※1

ガスケット業界の一大転機であるノンアス化のために、昭和60年6月(1985年)米国アーム
ストロング社と人造繊維質ガスケット材の共同開発に関する契約を締結した。

また、昭和62年(1987年)ノンアス化対応と新技術導入のため、新素材のラバーコートメタル材
を米国ウォルバリン社と共同開発に関する契約を締結した。

これは先の米国アームストロング社との共同開発に次ぐもので、我が社はいち早くノンアス化
に着手した。



米アームストロング社の人造繊維製品



米国アームストロング社との共同開発契約締結
(左)Mr. J.ヘルマー (右)石川五男社長

※1 当時ガスケットの材料はアスベストが主流であったが、この頃から人体に有害であることがわかったため当社では業界に先んじてアスベストを使わない材料への移行を進めた。